

東北大学での 研究データポリシー策定: 「なぜ?」と「どのように?」

@教育総合展EDIX東京（2022年5月11日）

東北大学

データシナジー創生機構

元木正和

研究データポリシーに関連する学内検討体制

- 研究データ管理連絡調整WG（情報担当理事所掌）（2020年1月～継続中）（構成：情報、研推、図書館、産学、URA、研究公正、それぞれ課長クラス）
- 研究環境DX推進方策検討TF（研究担当理事所掌）（2020年10月～2021年3月）（構成：情報、図書、研推の各理事、及び主要部局長、注：情報、法学（産学）、URAの教員が実働部隊）

大学の研究データポリシーに関連する学 外の動向

- AXIES RDM部会 URDP-WG(University Research Data Policy) (2020年7月～2021年3月) (成果物：大学における研究データポリシー策定のためのガイドライン、大学における研究データ管理体制構築への道のり)
- AXIES-JPCOAR研究データポリシー策定WS (第一回) 大学において研究データポリシー策定義務化?!さてどうする? (2021年9月28日)
- AXIES-JPCOAR研究データポリシー策定WS (第二回) 大学において研究データポリシー策定義務化?!さてどうする? (2021年11月30日)

研究データ管理公開ポリシー策定に関する各大学の動向

- 「京都大学研究データ管理・公開ポリシー」（2020年3月19日 研究者情報整備委員会 承認、「ポリシーについての解説・補足」あり）<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/research-policy/kanrikoukai> 関係記事：E2295 - 「京都大学研究データ管理・公開ポリシー」採択の経緯（カレントアウェアネス-E No.397 2020.09.03） <https://current.ndl.go.jp/e2295>
- 「名古屋大学 学術データポリシー」（令和2（2020）年10月20日 教育研究評議会 承認、「解説」あり）<https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/>
- 「国立大学法人東京工業大学の研究データポリシー」（令和3（2021）年4月16日）<https://www.titech.ac.jp/0/about/policies/research-data> 関連動画：『「研究データポリシー, 実施方針」策定 東京工業大学爆走の375日の舞台裏を語る。図書館総合展2021 ver.』講師：茂出木 理子（東京工業大学）<https://www.youtube.com/watch?v=vRICSgCG98I>
- 「東北大学研究データ管理・公開ポリシー」（令和3（2021）年12月9日総長裁定、「解説」あり）<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2022/01/news20220104-05.html>
- 「金沢大学学術データマネジメントポリシー」（令和4（2022）年3月11日制定）<https://www.rdm.kanazawa-u.ac.jp/index.php/rdm-policy/>

東北大での研究データポリシー策定 (2020年度の活動)

- (2020年4月) 研究データ管理についての学内の状況について、まず、アンケートで調査。
- (2020年5月頃) 研究データ管理連絡調整WGにて、ポリシーのたたき台のたたき台を作成。
- (2020年9月) 東北大で研究データポリシー策定する、との連絡。→研究環境DX推進方策検討TFにて作業。(第1回10月19日、第2回11月17日、第3回12月7日、第4回1月15日、第5回2月17日、第6回3月15日)
- (2021年3月) ポリシー案を部局長連絡会議で各部局に意見照会。

東北大での研究データポリシー策定 (2021年度の活動)

- (2021年5月) 研推より、部局からとても厳しい意見あり、対応するよう指示。
- (2021年9月～2021年12月) 該当部局の教員に、研究データポリシー策定の実働部隊に入っていたいただき、協力して検討し策定。結果として、コンプライアンス面で充実した解説となった。
- (2022年1月) HP上にて、ポリシー策定についての広報実施。

ポリシー本文

- 右にある1ページが本文
- 管理、公開、支援といった業務別に整理。検討途中では、見出し不要という意見もあったが、最終的にこの形となった。

(趣旨)

東北大学（以下「本学」という。）は、建学以来の伝統である「研究第一主義」と「門戸開放」の理念を掲げている。

研究データを適切に管理することは優れた研究を行う上で必要不可欠であり、また、研究データは学術や社会の発展に必須の知の基盤の一つである。

そこで、本学は、研究データを適切に管理し、その公開等を通じて利活用を促進することにより、本学の理念を実践し、もって研究中心大学として人類社会の持続的発展に貢献することを目的として、研究データの管理、公開及び利活用に関するポリシーを以下のように定める。

(定義)

1. 本ポリシーにおいて「研究データ」とは、本学における研究活動の過程で研究者によって収集又は生成された情報をいう。

(原則)

2. 本学は、原則として、研究データを収集又は生成した研究者がその研究データの管理を行う権利と責務を有していることを認める。

(研究データの管理)

3. 研究者は、研究データの価値を守るため、それぞれの研究分野の特質を踏まえ、その法的及び倫理的要件に従って研究データを管理しなければならない。

(研究データの公開)

4. 本学および研究者は、それぞれの研究分野の特質を踏まえ、その法的及び倫理的要件に従って、可能な限り社会に研究データを公開し、その利活用を促進する。

(研究データの管理、公開及び利活用の支援)

5. 本学は、研究データの管理、公開及び利活用を支援する環境を整える。

(その他)

6. 本ポリシーは、社会や学術状況の変化に応じて適宜見直しを行うものとする。

解説

- 右のページから始まり、全11ページにわたり、詳しくポリシーを解説。
- 特に、研究者とその研究を守るために、適切な研究契約締結の重要性などを詳しく説明している。

(趣旨)

東北大学（以下「本学」という。）は、建学以来の伝統である「研究第一主義」と「門戸開放」の理念を掲げている。

研究データを適切に管理することは優れた研究を行う上で必要不可欠であり、また、研究データは学術や社会の発展に必須の知の基盤の一つである。

そこで、本学は、研究データを適切に管理し、その公開等を通じて利活用を促進することにより、本学の理念を実践し、もって研究中心大学として人類社会の持続的発展に貢献することを目的として、研究データの管理、公開及び利活用に関するポリシーを以下のように定める。

東北大学研究データ管理・公開ポリシー（以下「本ポリシー」という。）は本学の理念のもとに策定されるものである。なお、本学の研究分野は多様であるため、本ポリシーは基本的な方針を示すにとどめることとし、詳細は各部局等で定めるものとする。

(1) 本ポリシー制定の背景と目的

研究活動におけるデータの重要性は増大しており、学術研究をさらに発展させ、その成果を活用して社会を発展させるためには、高い学術的意義を有する研究データの利活用を促進することが不可欠である。

また、本学及び本学の研究者が、将来においてよりよい研究を行うことを確保するためには、研究データの扱いに関するポリシーを定め、それに従い、適切な研究データの公開及び利活用が行われることが必要である。

そこで、本学における研究データの管理及び公開に関する基本方針を示し、研究データの利活用の促進を図るとともに、本学の研究データの価値を守り、本学及び本学の研究者の将来における研究の基盤を確保するため、本ポリシーを定めることとした。

(2) 研究データの管理・公開に関する一般的留意事項

1) 法令、契約、本学が定める規程等の遵守

研究データの管理及び公開にあたっては、関連法令、国や国際的機関等が定める研究倫理指針、各研究分野における倫理的要件、研究契約、本学が定める規程その他こ

お題「なぜ？」と「どのように？」

- 答えやすい方から、「どのように？」の部分については、まず、草の根レベルで研推、図書、情報、産学等からなる「研究データ管理連絡調整WG」にて、ポリシーたたき台作成を試みた。その後、このたたき台を基にして研究担当理事のリーダーシップにより、ポリシーと解説の具現化を実践することとなった。
- 途中で、全部局に意見照会することで、当初の予定より9か月程度遅れることとなったが、議論を重ねて全学的に納得できるものができた。

お題「なぜ？」と「どのように？」

- 優れた研究には優れた研究データ管理が必須との考えが根底にある。解説のコンプライアンス部分を詳しく記述し、研究者とその研究を守ることを重要視した。
- この考えを共有しつつ、それぞれの学内ステークホルダがそれぞれ業務に即した考えを持っていると思われる。例えば図書だといかに公開していくか、産学だと共同契約等の際に研究をいかに守りつつメリットを最大限化するか、等々。
- 上記のように、組織的な研究データ管理支援の根拠となるので、この意味でもポリシーは重要であるということを実感しているところ。

研究DXに向けての学内検討体制

- 研究データ管理・公開ポリシーを踏まえた部局実施要領等の策定のためのガイドライン検討WG（研究担当理事所掌）（2022年2月～）（構成：研究環境DX推進方策検討TFの実働部隊と課長クラス）
- データアクセス検討TF（データ戦略・社会共創担当理事所掌）（2022年3月～）（構成：RDMが比較的進んでいる分野の教員）

最後に 研究DX 今後に向けて

- 研究データ管理公開ポリシーを研究者が実践するために、どんな支援が必要か？どのような実施要領を作る必要があるか？等々を知るために、学内の様々な研究室にヒアリングを実施中。（4月20日時点で、13研究室を予定）
- 効果的に公開したいデータについては、特別な手続きが必要となりそうなので、その方式も検討中。 等等々。。。。

→ **作業は多岐に渡る！**

ポリシー策定はゴールではありません。
重要なマイルストーンの一つ。
まだまだ頑張って進めていく必要があります。